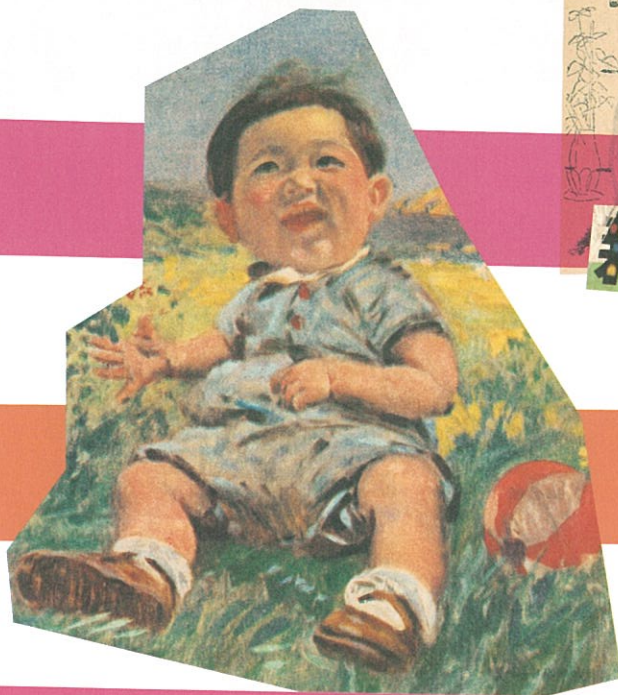




Saburo Miyamoto and Woman's magazine in the Showa era

宮本三郎と昭和の婦人誌

女性美を求めて

For the beauty of WOMAN

2009年4月1日 水 — 7月26日 日

開館時間=10:00~18:00(入館は17:30まで) 休館日=毎週月曜日(ただし、休日と重なった場合は翌日) 5月7日(木)は休館
観覧料=一般200円(160円)、大高生150円(120円)、中小生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金。小・中学生は土・日・祝日及び夏休みの間無料。

※障害者で小・中・高・大学生、および障害者の介護者(当該障害者一名につき、一名に限る)は無料。

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL 03(5483)3836 www.miyamotosaburo-annex.jp



婦人公論



世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館

宮本三郎と昭和の婦人誌

女性美を求めて

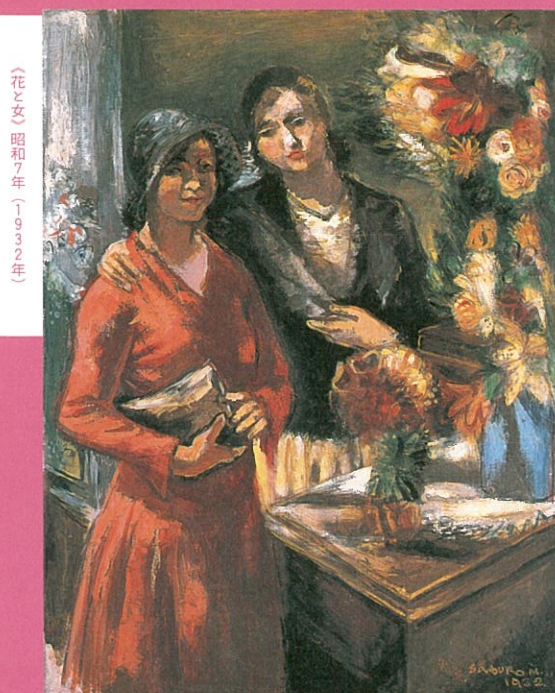
For the beauty of WOMAN

『婦人公論』、『主婦之友』、『婦人世界』、『新女苑』など、大正から昭和初期にかけて創刊された婦人誌は、教養、娯楽、流行など幅広く大衆文化を支えてきました。これらは、女性の社会進出にも大きな影響を与え、理想的な日本の婦人像を描き出すスタイルブックであったともいえます。

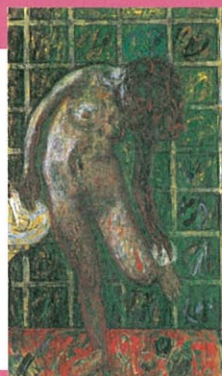
単色で、グラビアにも乏しい当時の誌面をより魅力的にさせたのは、壮麗な美人画で彩られた表紙絵と、活字に添えられた妙味のある挿絵でした。宮本三郎(1905-1974)は、卓越した人物描写の技術を見込まれ、昭和10年代から昭和40年代にかけて『主婦之友』や『婦人公論』の表紙絵、小説の挿絵を描きました。

良妻賢母を目指した誌面にふさわしく健康的で聡明さを漂わせた女性たちや、戦後は高峰秀子や雪村いづみなど、さらびやかな女優たちで飾られた宮本の描いた表紙絵は、読者にも高い評判を得ていました。また、獅子文六や三島由紀夫、吉屋信子などの連載小説に宮本の挿絵が添えられ、その瑞々しい情景描写にも人気が高まりました。

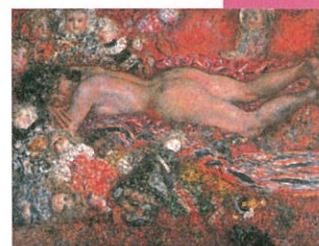
こうした女性誌での仕事は、画家として描く作品とは異なるものですが、社会や読者から求められた女性の理想像を探ることは、宮本自身が芸術における女性の美を探ることと一脈通じ合っていたのではないのでしょうか。本展は、これらの宮本三郎の女性誌での仕事を通じて、生涯をかけて女性を描き続けた宮本三郎の「女性美」への追求を探る試みです。



《花と女》昭和7年(1932年)



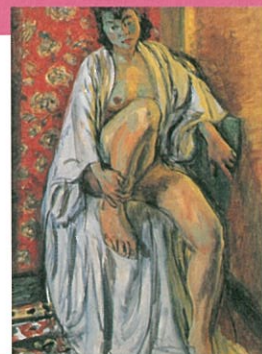
《化粧室の裸婦》昭和40年(1965年)



《化粧室の裸婦》昭和49年(1974年)



《うすくまる裸婦》昭和32年(1957年)頃



《椅子に腰掛ける裸婦》昭和22年(1947年)頃

ギャラリートーク

毎月第2土曜日に、当館学芸員が展示解説を行います。

日時=4月11日(土)、5月9日(土)、6月13日(土)、7月11日(土) 各回14:00より30分程度

参加費=無料(観覧料のみ) 事前申込不要 当日会場へお越しください。



世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

本館情報

世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL 03(3415)6011(代)

企画展

特別展『平泉〜みちのくの浄土〜』

2009年3月14日(土)→4月19日(日)

『日本の自画像』写真が描く戦後 1945-1964

2009年5月2日(土)→6月21日(日)

収蔵品展『人々のものがたりPartI「人のかたち、人の想い」』

2009年5月1日(金)→7月12日(日)

『人々のものがたりPartII』

『利根山光人とマヤ・アステカの拓本』

2009年7月16日(木)→9月11日(金)

分館情報 2009年4月1日(水)→7月26日(日)

清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 世田谷区成城2-22-17 TEL 03(3416)1202

www.kiyokawataiji-annex.jp

『文明讃歌——清川泰次が写したマシーン・エイジ』

お詫びとお知らせ「向井潤吉アトリエ館工事休館」

向井潤吉アトリエ館は、耐震調査の結果、耐震化が必要となりました。今後も皆様に安全にご利用いただくため、急きょ、平成21年(2009)3月16日(月)より、当分の期間、休館することになりました。皆様にご迷惑をおかけすることを、心よりお詫び申し上げます。どうぞ、ご理解をいただきたくお願い申し上げます。

工事期間や再開の時期については、決定次第、「情報ガイド」(せたがや文化財団情報紙/毎月25日発行)、ホームページなどでお知らせをいたします。今後とも、ご愛顧のほどよろしくお願いいたします。